



秋が深まり、朝夕の空気にも少しずつ変化を感じるようになりました。季節が移ろうように、人の成長にも立ち止まったり、迷ったりする時間があります。先の見えない時ほど目の前の一步を大切にすることが、次の道につながるのかもしれない。



●不安は敵ではない

秋になりました。夏の暑さが少しずつ和らぎ、教室の空気にも、これまでとは違った緊張感が漂い始めています。特に受験生にとっては、ここからの時間がこれまで以上に大切になってきます。模試の回数も増え、志望校判定や偏差値といった数字を目にする機会も多くなります。そして、数字は時として、私たちの心を大きく揺らします。

「思っていたより成績が伸びていない」「このままで大丈夫なのだろうか」「周りの人はもっと先に進んでいるのではないか」そんな不安を感じる事もあるでしょう。けれど、私は思います。不安になることは、決して悪い事ではありません。むしろ、不安になるということは、それだけ自分の未来を真剣に考えているということではないのでしょうか。

何も考えていなければ、不安になることもありません。大切なものだからこそ、失いたくないと思う。目指しているものがあるからこそ、届くかどうか気になる。本気で取り組んでいるからこそ自分の現在地が気になる。そう考えると、不安は「敵」ではありません。挑戦している自分の中に生まれる、自然な感情なのです。もちろん、不安を抱えたままでは苦しいこともあります。

今月の予定

★10月8日…入試100日前
大学共通テスト、中学受験の
100日前カウントダウン開始！
○中旬…各校定期テスト実施
◆3日…オプション講座開始

塾長の弦きブログ



模試の結果を何度も見返したり、友達の成績と比べたり、インターネットで様々な情報を調べたり。そうしているうちに、いつの間にか「勉強すること」より「不安になること」に時間を使ってしまっていることがあります。でも模試の結果は、その時点での自分を知るための一つの材料です。それ以上でも、それ以下でもありません。できなかった問題があれば、そこから何を学ぶか。足りないところが見つかったなら、これから何を補うか。結果を「終わり」として見るのではなく、「次に何をするかを教えてくれるもの」と考える。それだけでも、同じ結果の意味は変わってきます。これは受験生だけの話ではありません。私たち大人も、日々の生活の中で不安を感じます。仕事のこと。家族のこと。将来のこと。先のことがすべて分かっている人など、おそらくいません。だからこそ「不安がなくなってから前へ進もう」と考えてしまうと、いつまでたっても動き出せないのかもしれない。不安があってもいい。迷ってもいい。それでも、今日できることを一つやってみる。一問解く。昨日間違えた問題をもう一度やってみる。机に向かう時間を少しだけ増やす。そうした小さな行動が、不安を少しずつ「前へ進む力」に変えてくれます。保護者の皆さまにとっても、これからの時期は心配の多い季節になると思います。模試の結果を見て、親の方が焦ってしまうこともあるでしょう。「このままで大丈夫？」「もっと頑張らないといけないんじゃない？」そう声をかけたくなる気持ちも、当然だと思います。しかし、子どもたち自身も、実は同じように不安を抱えています。だからこそ、家庭では「不安をなくしてあげる」ことよりも、「不安があっても進めるように支えてあげる」ことが大切なのではないのでしょうか。大丈夫だと言い切れない日があってもいい。迷いながらも、一歩ずつ進めばいい。受験とは、そうした時間を乗り越えていく経験でもあります。そして、今感じている不安も、いつか振り返れば、自分が本気で何かに挑戦した証になるはずです。不安は、敵ではありません。それは、自分が前を向いているからこそ生まれるもの。だから、不安を抱えたままでもいい。今日やるべき事に向き合いましょう。秋は、これから冬へ向かう季節です。一日一日を大切にしながら、焦らず、しかし歩みを止めずに。それぞれの目標へ向かって進んでいきましょう。